

Weekly Report

2026.05.14

No. 3171

ROTARY CLUB OF MOKA

2025～2026年度 国際ロータリー第2550地区 真岡ロータリークラブ

ID13862 真岡

Rotary



UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

真岡ロータリークラブ 柳田尚宏 会長メッセージ「原点回帰！」

- 本日のプログラム 内部卓話
- 司会 SAA 安田 政昭 君
- 点鐘 柳田 尚宏 君
- ロータリーソング 四つのテスト
- ゲスト 米山奨学生 ライ・ヨウティン 君

■会長挨拶 柳田 尚宏 会長



皆さま、こんにちは。本日もご多忙の中、例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日のお客様は、米山奨学生の ライ・ヨウティン さんです。ようこそお越し

くださいました。後ほど、皆さまと良い交流の時間を持ていただければと思います。

また本日の例会は内部卓話となっております。青柳謙一会員、ならびに 中村友宣 会員より、それぞれの立場からお話をいただきます。金融や地域経済を取り巻く状況が大きく変化している中で、大変貴重なお話が伺える機会だと思っております。ぜひ皆さま、心して拝聴いただければと思います。

5 月も半ばを迎え、新緑が一段と鮮やかになり、初夏の空気をを感じる季節となっております。日によっては汗ば

むような陽気の日もありますので、どうか体調管理には十分お気を付けいただければと思います。最近、物価高騰や人手不足など、私たちを取り巻く環境もなかなか厳しいものがあります。業種は違っても、それぞれの立場で悩みや課題を抱えながら、日々努力されていることと思います。ただ、こういう時代だからこそ、人と人とのつながりや地域で支え合うことの大切さを改めて感じています。ロータリークラブも、ただ集まるだけの場ではなく、地域のため、仲間のために力を合わせ、お互いに刺激を受けながら前へ進んでいく場でありたいと思っております。例会の中の何気ない会話や交流が、新たな気付きや励みにつながることも多いと思いますので、本日もぜひ有意義な時間にしていただければ幸いです。

そして年度も終盤に差しかかってまいりました。今年度をしっかり締めくくれるよう、最後まで皆さまと共に歩んでまいりたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本日の例会が皆さまにとって実りある時間となりますことをご祈念申し上げ、会長挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

MAKE UP 会場案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
宇都宮 90：東武ホテルグランデ 小山中央：思水荘 真岡西：フォーシーズン静岡	宇都宮：東武ホテルグランデ 宇都宮東：ホテルニューイタヤ 小山南：小山グランドホテル	益子：益子カントリー 下野上三川：石橋商工会館 小山北：和風ダイニング彩華	宇都宮西：東武ホテルグランデ 宇都宮北：ベルビィ宇都宮 小山：小山グランドホテル	小山東：小山グランドホテル

会長：柳田 尚宏 幹事：坂本 光 会報委員：平石典嗣 中島弘司 市村滋朗 相場一宏

事務局：〒321-4305 栃木県真岡市荒町 1203 (真岡商工会館内) TEL.0285-84-2511 FAX.0285-84-2510

URL: <http://rc-moka.jp/> E-mail: rc-moka@sweet.ocn.ne.jp

■米山奨学金授与 米山奨学生 ライ・ヨウティン君



先週、久々に台湾に帰り、充実した時間を過ごすことができました。久しぶりに家族と会い、みんなでテーブルを囲んでご飯を食べながら話げできました。おばあちゃんとおじいちゃんが元気を見て、とても安心しました。

また、高校や地元の友達とも会うことができ、ちょうど時間があつたので、いろいろな人と再会しました。その中で、少し違ったことを感じたのは、僕の同期の友人たちが昨年大学を卒業したことです。台湾では男性は兵役に入らなければならないため、4ヶ月間の兵役を終えた友達もいて、いろんな兵役の経験について話を聞くことができました。自分も今後入隊する予定なので、彼らの話を聞きながら少し緊張してきました。

さらに、様々な友人たちと人生の計画についての話をすることで、自分自身についても考える機会を得ることができました。これからも頑張っていきますので、どうぞよろしくをお願いします。

■幹事報告 次年度幹事 平石 典嗣 君



次年度事業計画書の提出について

■内部卓話

「組織におけるエンゲージメント」 青柳 謙一 君



あらためましてこんにちは。栃木銀行の青柳です。本日は卓話ということで、お時間をいただき、誠にありがとうございます。

本来であれば、パワーポイントを使ってプロジェクターでこちらに投影しながらお話するのが見やすく、伝わりやすいと思っていたのですが、当行では情報漏洩防止の観点からパソコンの持ち出しが禁止されているため、申し

訳ありませんが、今回は話だけで皆さんにお伝えしようと思います。分かりにくい点があるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。

さて、本日は「組織におけるエンゲージメント」についてお話しさせていただきますが、その前に少し自己紹介をさせていただきます。私は昭和51年生まれの49歳で、出身は隣の上三川町です。子供の頃はインターパークがまだなかったため、買い物といえば真岡に来ていました。福田屋や伊勢屋によく行った記憶があります。中学生になると、夏休みに友達と自転車で1万人プールに行ったりして、そこに着くまでに相当な坂道がありました。プールに着く前からへとへとになっていましたが、それでも若かったので何日か連続で通った思い出があります。今となってはとても良い思い出です。

私が栃木銀行に入行したのは平成11年で、現在の真岡支店は9店舗目です。初めに配属されたのは小山支店で、そこから小金井支店、真岡支店、本店、佐野支店、陽東桜ヶ丘支店を経て、野木支店で支店長になりました。その後茂木支店を経て、現在に至るのがこれまでの経歴です。前にもお話ししましたが、真岡支店で勤務するのは13年ぶりの2回目です。真岡支店は私にとってたくさんの思い出がある支店で、2人の子供も真岡支店勤務の時に生まれました。自宅の新築もこの時期に行き、初めて役職につけてもらったのもこの時です。振り返ってみると、私の人生の中でこの真岡支店に勤務していた期間は非常に重要な時期だったと思っています。また、東日本大震災を経験したのも真岡支店です。当時の斎藤支店長と一緒にお客様のところへ行く途中、東大島のあたりで車に乗っていた際に地震に遭遇しました。目の前で大谷石が崩れ落ち、間一髪ぶつからずに済んだことを鮮明に記憶しています。真岡支店も停電してしまい、初めて銀行に泊まることになり、とても寒かったことを覚えています。まさか自分が支店長となって戻ってくるとは思っていませんでしたが、深い思い出のある場所だからこそ挑戦しようというメッセージだと勝手に受け止め、今頑張っております。

少し長くなりましたが、自己紹介はこの辺にさせていただきます。今日の本題である組織におけるエンゲージメントの話させていただきます。皆さんは「エンゲージメント」という言葉を聞いたことがありますか？ 直訳すると「婚約」や「契約」、「約束」といった意味ですが、ビジネスの世界では深いつながりを持った関係性を意味します。組織内でのエンゲージメントとは、働く人たちが所属する組織や共

に働く人々に対して愛着を感じ、貢献意欲を持ちながら仕事に熱中することを指します。

最近、当行ではエンゲージメントを向上させることが仕事の質や生産性を向上させるだけでなく、離職率の低下にも寄与すると考えられ、非常に重視されています。最近受けた支店長向けの研修でも取り上げられるようになっていきました。ここにいる皆さんの中には、経営者として従業員との関係に悩んでいる方はいないかもしれませんが、私は非常に悩んでいます。部下や職員に対して気を使っているつもりです。最近の若い人について思うこともあります。しかし、エンゲージメントの向上が組織を強くすることにつながると信じており、当行でもその取り組みを強化しています。それを皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、これまで会社と従業員の関係性は、従業員が会社に従う主従関係でした。この中では忠誠心を高めることが最も重要だとされてきました。しかし、働き方の多様化や働くことに対する価値観の変化によって、その関係が変化しています。今や、会社と従業員が結束し、互いに高め合う対等な関係が重要とされるようになりました。働くことの価値観が変化しているというのは、例えば、一つの会社で定年まで働くといった価値観が薄れつつあり、キャリアの充実や働きがいを求める人が多くなっています。昔と比べて、考え方が変わってきているのが現状です。

その中で、当行では組織のエンゲージメントを高めることで、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる環境を整え、愛着心が生まれると考えています。そして、その組織を作るのが支店長の役割です。では、エンゲージメントを向上させるにはどうすればいいのか。私も今手探りの状態ですが、一般的には企業理念の共有や、将来のビジョンを明確にすること、個人の成長への支援が必要だと言われていますが、私にはまだピンときませんでした。そこで、まずは働きやすい職場を作ることが最優先だと考えました。そのために、真岡支店の職員 33 名全員と個別に面談して、彼らがどのように感じているのか、会社に対して何を求めているのかを聞いてみました。すると、多くの意見が出てきました。彼らは直接口に出さないだけで、さまざまなことを考えているのです。ポジティブな意見は参考にしつつ、ネガティブな意見についてはできる限り解決に向けて動くようにしました。ネガティブな意見は単に聞いただけでは悪化させる可能性があるため、少しでも改善するように取り組むことで、支店長が自分のことを考えてくれていると感じてもらえるようにしました。これにより、少しでも働きやすい

職場になり、職員のモチベーションアップにつながると考えました。ただ、これだけでは個々の満足度、いわゆる ES (Employee Satisfaction) は向上しますが、組織としての一体感を高める手立てが不足していると感じました。組織への愛着を深めるためには、コミュニケーションを充実させることが重要だと思いました。特に最近の若い人たちは自分から意見を発信しにくい状況が見受けられ、日常的なコミュニケーションが不足していると感じていました。コロナ禍以降、その傾向は一層顕著になったようです。また、店舗内で内勤と外回りのスタッフがフロアが別々であることも影響していると考えました。そこで、コミュニケーションを充実させる具体的な方法として「真岡支店シャッフル懇親会」を企画しました。これまでも歓送迎会は行っていましたが、今回は役職、性別、年代などの枠を超えて、くじ引きで 8～9 名ずつ 4 チームに分けました。支店長や管理職はオブザーバーとして参加し、開催場所も自分たちで決めて懇親会を行いました。テーマを設けずに行うとただの酒会になってしまうので、エンゲージメントを高める方法を話し合う時間を設けました。職員たちから非常に好評を得て、前向きな意見が出るようになりました。初めての試みだったため、非常に新鮮だったようで、普段あまり話をしない人とコミュニケーションができたという感想も聞かれました。

手探りで始めた企画ではありましたが、思った以上の反応が得られて非常に嬉しかったです。ただ、これを実施したからといってコミュニケーションが劇的に向上したわけではありません。愛着を持ってもらうことは難しい課題ですが、少しは前進したのではないかと思います。エンゲージメントを高める意識を持つきっかけになったのではないかと感じています。

経営の神様と言われるパナソニックの創業者、松下幸之助さんの言葉に「企業は人なり」というものがありますが、まさにその通りだと思います。環境が急速に変化する今、人は企業にとって最大の資産です。エンゲージメントを向上させることが組織を強くする一つの手段だと考えています。私はまだ始めたばかりで明確なゴールは見えていませんが、小さなことを積み重ねることで、より良い組織になると自分自身でも期待しています。

本日は「組織におけるエンゲージメント」についてお話させていただきましたが、皆様の組織に少しでもお役に立てれば幸いです。本日はご清聴、誠にありがとうございました。

■内部卓話

「人生 100 年時代に備えて」 中村 友宣 君



あらためまして、こんにちは。私も同様に、手元の資料を基に、15分程度お話しさせていただければと思います。本日はお手元の「資産運用ガイドブック」を使い、先ほどご紹介いただきました「人生 100 年時代」への備えに関して、少しお話しさせていただきます。

自己紹介に関しては、前回の入会時にお話しさせていただきましたので、ここでは割愛させていただきます。

さて、日本の株式市場やアメリカのナスダック、S&P500、ニューヨークダウは非常に好調ですが、このマーケット動向に関しては 15 分ではとてもお伝え出来ませんので、今回は「人生 100 年時代」をテーマを絞ってお話しさせていただければと思います。まずは、3 ページを開いていただけると幸いです。そこには「人生 100 年時代の到来」が記載されています。

このグラフは、日本における 100 歳以上の高齢者数を表しています。1998 年には初めて 1 万人を突破し、これが 28 年前になります。その後、人数は右肩上がりが増加し、2025 年には約 10 万人に達すると予測されています。これは医療技術の発展や健康志向の高まりが一因です。もし 100 歳まで楽しく生活できるのであれば、80 歳よりもさらに 20 年を過ごさなければなりません。それには生活資金が必要ですので、この点についてもお話しさせていただきます。

次に、平均寿命と平均余命について紹介します。現在、日本人男性の平均寿命は 81 歳、女性は 87 歳です。サラリーマンは通常 60 歳または 65 歳で退職しますが、その後のセカンドライフには平均寿命から 20 年必要です。また、平均寿命と健康寿命の差についても触れたいと思います。男性は健康寿命が 72 歳で、平均寿命との間に約 8 年の差があります。女性の場合は健康寿命が 75 歳で、平均寿命との間に約 11 年の差があります。このことから、75 歳前後までは健康で、その後の約 10 年で余命を迎えることが多いと言われています。

次のページでは、老後に必要な生活資金についてお話しします。統計によると、夫婦 2 人の最低生活資金は月 23 万 9 千円です。旅行や趣味、子どもや孫の支援、耐久

消費財の買い換えなどゆとりの部分を合わせた部分を含めると、毎月約 39 万 1 千円が必要です。みなさんは経営者だと思いますので、老後の資金にはあまり心配はないかとは思いますが、一般的にはこのような考え方があります。

ちなみに、65 歳以上のサラリーマンに支給される年金の平均は夫婦で 23 万 2 千円です。ゆとりある生活には 31 万 9 千円必要ですが、普通の年金だけでは 15 万 9 千円不足します。この不足分を年数に換算すると、年間約 190 万円の不足となります。

もし仮に 2,000 万円の預金があるとした場合、毎月 15 万 9 千円の不足分を取り崩すと、金利が 0.275% の場合、10 年 7 カ月で資金が尽きてしまいます。金利が高い場合、例えば年間利回り 8% の場合は 22 年間持つかもしれませんが、実際には現在の定期預金金利は 0.4% 程度で、その場合は 10 年ほどで資金が尽きる計算になります。

さらに、人生 100 年時代を考えると、85 歳まで生きる場合には 4,000 万円、95 歳まで生きる場合には 6,000 万円が必要と言われています。多くの方がここで心配しなくても済むとは思いますが、一般的な指標として頭に入れておいていただければと思います。

さて、これからの資産運用についてですが、今は金利が上昇している時代です。日銀の利上げについてもお話ししますが、今後も金利が重要なポイントになります。この 72 の法則というものもご紹介いたします。これは元本を倍にするために必要な年数を計算する方法で、例えば年利 3% なら 24 年、年利 7% なら 10 年で元本が倍になります。

日本の政策金利は他国に比べて低い水準ですが、アメリカの国債などを使って運用する選択肢もあります。それに伴い、マーケットから考えると、株式や投資信託の利用もお勧めです。さて、日本の金融資産の構成は、預金が 50%、保険が 26%、有価証券が 18% とされていますが、アメリカは現金が 11% で、有価証券が 54% を占めているため、運用に向けた意識が異なると思われます。

最後に、GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) の運用について触れておきます。現在、国内債券、外国債券、国内株式、外国株式など様々な資産にリスクを分散して運用しています。このような取り組みのおかげで、年金問題に対する不安は緩和されています。

資産運用が一層重要になる中で、ぜひ皆さんも自分のライフプランをしっかりと築いていただければと思

ます。最後に、資料のリーフレットには当社が取り扱っている投資についても記載されていますので、ぜひご覧ください。ご清聴ありがとうございました。

■スマイルボックス報告 西村 英人 君



<柳田 尚宏 君>

青柳会員、中村会員、卓話宜しくお願い致します。ライ君ようこそ。

<坂本 光 君>

本日は青柳会員、中村会員、卓話楽しみに拝聴させて頂きます。ライ君いらっしゃい！

<渡邊 佳寛 君>

青柳会員、中村会員、今日は我々のフトコロがうるおう卓話を期待しております。

<市村 忠男 君>

ライ君いらっしゃい。白内障の術後異常なしとお墨付きをいただき安心しました。目に合う老眼鏡が作れます。

<高波 眞吾 君>

炉辺会合 D グループの座長の高波です。会費の残金をスマイルボックスに入金いたします。

<沼田 雄一 君>

先日は炉辺会合 B グループの皆様、柳田会長、坂本幹事、ご参加いただきありがとうございました。皆様のおかげで和やかな会となりました。感謝。

<青柳 謙一 君>

本日は初めての卓話で大変緊張しております。宜しくお願い致します。少しでも伝わればいいと思います。

■スマイルボックス(5月14日現在)

前回までのスマイル繰越金	648,820
会員	27,000
ビジター	0
本日のスマイル合計	27,000
スマイル今期累計	675,820
前回までの米山繰越金	15,427
本日の米山	0
米山今期累計	15,427

■月間予定出席者

在籍 48 名	出席免除者 1 名 (有資格者 1 名 + 有理由者 名)						
例会日	出席義務	事前 MU	事後 MU	出席者	内免除者	欠席者	出席率(%)
補正後 月 日							
本日 5月14日	47	6		32		9	80.85

■月間出席率 (%) ※例会欠席は前日 15 時までには必ず事務局までお知らせください。(TEL.0285-84-2511, FAX.84-2510)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
80.68	73.49	65.43	70.59	82.61	73.19	78.72	71.63	68.09	71.63		